

研修報告書No. 20

所 属：県外総合病院 2年目研修医

研修先：医療法人聖真会 渭南病院

私は2016年2月のうちの2週間、土佐清水市の渭南病院で地域医療研修をさせていただきました。市内からの救急要請患者を一手に引き受ける同院は救急車対応からいわゆる Walk-in 患者、定期受診患者を外来診察室で日々診察し、また近隣の特別養護老人ホームへの訪問診療にも週2回赴くなど、同院が当該地域の医療福祉に多大な貢献をされていることを研修の中で強く感じました。

外来診療では内科・外科領域に関わらず、朝早くから多くの患者さんが診察を待っている毎日でした。外科系領域を専門とする先生方が大半ですが、その先生方も内科的疾患に対し必要な対応を行っておられる現状を目の当たりにしました。領域を細分化された大病院ではおそらく行われませんが、専門分野に関係なく診療を行う、いわゆる Generalist としての素養が求められ、その一方で専門性の高い治療を要する際には、中核病院への転院搬送をためらうことなく行う迅速な判断も重要であることも学びました。渭南病院においては、幡多けんみん病院（宿毛市）が中核病院として当該地域の医療を支えておられ、現に私は手術を要するとされた上肢骨折症例の救急搬送に同乗いたしました。しかし宿毛までの搬送には片道1時間を要し、患者さんや家族にとってその移動は大きな負担ともなりますから可能な限り同院で診療することも目指しておられ、搬送することと対照的ですが、こちらもまた重要なことなのだと印象付けられました。患者さんもこういった実情は承知のうえで、かつ同院を信頼し、かかっておられるのだと実感することができたと同時に、おそらく過疎地に位置する県内の病院の多くも、似た状況に置かれているのではないかと想像するに至っております。

研修の具体的内容について述べますと、2年目も佳境であったためか入院外来を問わず、診察や処置をまずは任せていただきました。その後先生方へ確認、適宜相談といった流れを基本に診療しておりました。多々ご迷惑をおかけすることもありましたが、先生方をはじめ看護師の皆さんなどに辛抱強く見守っていただいたことを大変ありがたく思っております。臨床 skill に関する事柄だけでなく、院内の運営では急性期病床と療養型病床、地域包括ケア病床のいずれをも有効活用し、近隣の療養型医療施設や中核病院の疲弊の予防につながることに気がつきました。

他にも同院で開催される AHA-BLS コースへの地域住民の参加企画など、医療従事者の数に限りがある状況で東南海地震という来たる大災害にいかに対処するか、溝渕院長が計画されていたことも印象的でした。こうした逆境を生き抜こうとされる精神は、土佐清水出身で漂流の後、アメリカにわたり開国日本の礎を築いたと言える中濱万次郎（ジョン万次郎）の精神にまさに基づいているのだと、大変感銘を受けた2週間でした。

今後、私自身は専門分野に徐々に特化した臨床研修を行います。高知・土佐清水で培った経験を忘れることなく、幅広い見地を持って日々研鑽を積んでまいりたいと思います。短い間ではありましたが、本当にありがとうございました。